

下斗米氏系図

平将門後胤（相馬小次郎師胤は代の孫胤茂より数代の孫将久より出づ）

将久

刑部

政辰 将久四男

平蔵

将方

平吉

将定

与九郎

政常

元禄年中福岡に移住す

惣四郎

常宣

惣右衛門

将形

享保四年仕南部侯 別系

伊兵衛

某 伊三郎

常高 惣之進 宗兵衛
雅補 惣七 定林 兄将形の養子

惣七

将信 勝之進 勝司

宗兵衛

某 惣次郎 別系

某 喜吉 別系

某 宇源太 沢田作左衛門

養子

某 文左衛門 欠端家養子

女子 女鹿孫妻

女子 田中館彦右衛門妻

氏胤 平九郎

宗之進

将信長子

文政六年三月晦日、某方儀弟大作、竜之介並大作妻子召連去々年五月出奔候儀に付甚不始末の次弟とも有之閉門被仰付

天保八年二月二十九日歿五十八盛岡曹洞宗鳩峯山報恩寺に葬る

将真 来助 秀之進

大作

母妾腹丹野氏女

「 某 勝之進

竜之介と共に日蓮宗富士大石寺同荘の弟子となり名を弁玉と云う嘉永五年盛小鷹に感恩寺を開祖す名を莊恩又日濠と改む万延元年三月示寂法諡盛岡阿闍梨英穩院日淳贈上人

某 竜之進

富士派大石寺同荘の弟子となり名を日明と云う大石寺に自寂す

昌常深

文政六年大迫に引越住居被仰付後盛岡表へ引越相勤度願之通被仰付用人被仰付祿百石外に金方百石天保十年九月七日常考社兼祠官被仰付為御修履料御金方を以て御補用相勤本高を以て御軍役相勤候様被仰出安政二年卯十月十七日歿五十三報恩寺

小六

昌高繁

安政二年十二月六日家督被仰付同五年七月十九日名を知機と賜う用人被仰付慶応二年都に於て石見守を拜明治十一年三月二十二日歿年五十一報恩寺

知機

某 宗之進 小六郎

安政四年五月十五日明治四十一年家督預戸主